

2 2 年度「ちば食育推進ネットワーク交流会」の概要

1. 日 時：平成 2 2 年 1 2 月 1 5 日（水）1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 0 0
2. 場 所：関東農政局千葉農政事務所会議室
3. 参加者：ちば食育ネットワーク会員 団体 1 9 ・個人 4 名 計 2 7 名
4. 対応者：消費・安全部長 消費生活課長補佐
5. テーマ：「地域における地産地消と食育の取組」
6. 主催者あいさつ

（仲地 消費・安全部長）

ちば食育推進ネットワークは、平成 1 5 年に発足し、消費者団体の皆様をはじめ、行政、医療、学校給食及び個人会員を含め現在 5 9 団体（個人）が登録。活動としては、農政事務所からの情報提供及び会員相互の情報交換を行っている。

平成 1 7 年、1 8 年に食育基本法、基本計画が策定され、食育の活動を通じて皆様と結びついてきた。

本日の交流会が有意義なものとする活発な意見交換を期待いたします。

7. 講演：「山武郡市農業協同組合における地産地消と食育の取組」

講師：山武郡市農業協同組合販売開発部直産課長 今井 久光 氏

現在は、直売所などで農産物の販売を通して食べ物に関係する仕事をする事になり「食」に関して責任を感じるようになった。農協の「農」は食べ物であり、農地が育んだ食べ物を扱う仕事に責任が有る。「農」は農薬にも使うが、食べ物を生産する土地（農地）に使えない薬物は「非農耕地用」と表示している。農薬は適正（用法、容量、時期）に使用されれば、危険な物ではない。

現在の仕事から「食育」を担当しているが、活動を通じて気づかされることが多いと感じる。



山武郡市農協は、2 市 4 町からなり、地域は温暖な九十九里平野の中央部の平地（地質は砂分の多い平野）と北部は北総台地の関東ローム層台地である。山武地域の人口の約 7 %が農業従事者で、平均年齢 6 5 歳ぐらい。田、畑の多い農村地帯でも農業従事者は年々減っている。

その中で農協に集められる農産物は、3 ~ 4 割。その他は農家自給、市場に直接持ち込み、直売、生協等との契約作付け販売である。

千葉県は気候に恵まれているので、作るだけであれば何でも作れることができる。

今回のテーマ「地域における地産地消と食育の取組」に関しては、平成 1 5 年に農協として地域農業振興計画を作り、その中に「農」のある環境づくり、「農」のある地域作りを行い、地産地消と食育に取り組んでいる。また、1 0 年前から「地産地消」として地域の学校給食に米や農産物を供給している。

今の担当になって「食品」を扱っているとの意識が強くなり、生産者には、「子どもた



ちの給食に使われる農産物だから」と伝え生産していただいている。

現在、地域直売所4店舗を展開している。8割が地元農産物、直売所登録生産者630名、直売所では食育ソムリエ5名で旬の野菜でレシピ紹介している。お客様は60歳前後の方が多い。

農業を取巻く課題は、後継者も少なく、耕作放棄地も拡大している。そのような中で直売所の登録生産者はそれほど大規模でない生産者のものが中心となっている。1農家あたり1日4品目10袋を目標に出品してもらい、価格は売り手の農家が決める。個人売り上げ120万円を目標に取り組んでいる。それができれば畑の維持費になる。

専業農家は、単品大量生産が主流で何を作ったら売れるかを考えるが、直売所では、自分の家族に食べさせるものという意識で作ったものを売っている。専業農家ではなく、家庭菜園の延長の直売所で売っているので、農薬減で見た目が悪くても味のよい野菜。生産者登録は定期的に更新し、農産物の栽培管理簿の提出を義務付けている。



食料自給率40%で、裏を返せば海外依存率60%となる。私は地産地消を実践しており、昼食は手作り弁当なので、私個人の自給率は高いと思う。皆さんのお昼ごはんは、どうか。

日本型食生活が大切、日本人にはごはんが一番良いと思う。しかし、農家も忙しいとき「朝はパン、昼はコンビニ弁当」となっており、それはおかしいだろうと私は言っている。農協も大切な農産物を食品として扱うことに対して、食品表示、衛生管理、食品関係法令を勉強の毎日である。

直売所の生産者には栽培管理簿は生産者（生産工程管理者）からの自己申告を義務付けており、提出期限を過ぎれば提出を求めている。

直売所のクレームの中には「買ったなすを味噌汁にしたら、味噌汁が紫色になった」「買ったたまごをゆでたら、殻がむきづらい」というものがあり、当たり前前かが当たり前前に伝わっていないと感ずることがある。

直売所では、「ファーマーズマーケット憲章」に基づき、加工品は別としてバナナ等の輸入農産物は扱ってない。最大範囲としての取引は国内と考える。

食育等の実績としては、農産物収穫体験、地元農産物によるレシピ作成、小学校等への農業体験の手伝いなどがあり、積極的に取り組むこととしている。

「フードマイレージ」という言葉があるが、山武郡市農協は、東大阪市の提唱する地産地消で地域の農地をどれだけ守れるかという「ファームマイレージ」という考えに賛同している。例えば「国産のごはん1杯（150g）」を食べると、水田（農地）が1572cm²守られるという考え方である。山武郡市農協は、「ファームマイレージ」の商標登録をしている東大阪市内に、使用の許可を得て普及活動を行っている。

本年8月に県内4農協の農産物を使ったレトルトカレーを販売し、千葉の食品工場でメイドイン千葉（野菜・肉のみ）として5万パックを作成し、3ヶ月で売り切った。当初は売り切れるかどうか自信はなかったが、価格設定を低くしたこともあり好評で今も問い合わせがある。

最後に、食育で「農」という字は大切な食べ物と認識しているので、これからも積極的に取り組みを続けいく必要がある。「第一次産業を大切にしない国は滅びる」ということを伝えて、地域農業をしっかりと守り地産地消に取り組ましよう。

(質問)「ファームマイレージ」は、農地の保全が目に見えることからわかりやすい。もっと浸透させて、日本の農地を守るのにもっと使えないか。

(回答)東大阪市が商標登録しているので、考え方に賛同して使用する場合は使用許可を得る必要がある。農協や消費者団体は使用許可がもらいやすい、もっと活用したい。今後、直売所でのポイント制度ができないか検討中。

(質問)どうして残留農薬がわかるのか。

(回答)千葉県保健所の抜き取り検査により調べられて公表されている。

(質問)地産地消について農協として学校給食に、どのように関わっているのか教えていただきたい。

(回答)学校給食はセンター方式、自校方式があり、決められた日時までに納品している。メニューは1ヶ月前に示されるので、納品は間違いのないよう担当職員全員で行っている。地域で多く生産している物とそうでない物があり、納品のために苦労することもある。来年は、栄養士さんにも農業の生産現場を見てもらう企画も考えている。

(意見)栄養士会員の一番多いのは小中学校である。ほとんどが生産現場を知らない。生産組合と昔は横の連絡があった。特に生産現場の見学会など山武地域でもお願いしたい。

(質問)直売所に登録している農家の中で、学校給食に関わっている生産者数、学校数、生徒数は。

(回答)一旦集荷された農産物の大きなロットの中から分けるので、学校給食用として出している生産者数は把握できない。生産者は「学校給食に使用される可能性がある」と認識している。学校数は、今手持ち資料はないが、学校給食の対象となる生徒数は約1万8千人。

(質問)学校給食で納品時の課題はありますか。

(回答)メニューは1ヶ月前から示されており、現物がその日に無いという訳にはいかない。必ず納品する。地元でない場合は、近隣の市場から調達したこともある。決められた納品日、時間に納品するのは大変。前日夕方納品にして頂きたいとありがたいが。

(質問)「食育ソムリエ」の活動に教えて下さい。

(回答)農協内の資格で山武郡市農協では、「食育ソムリエ」職員1名、生産者の方4名。旬の野菜からレシピの紹介、食育活動では親子カレー教室等をしている。

8. 意見交換

千葉県農林水産部安全農業推進課



千葉県は、「ちば食育ボランティア」の登録を進めている。

千葉県「ちば食育サポート企業」の食育プログラムを作成し、またポスターを学校に配布した。100件以上の取り組みがされた。本年も11月に来年度の食育プログラムを作成し配布した。

『「ちば」の食育を支える民間の力情報交換会』

を開催し企業とボランティアの結びつきを強めることを目的に開催した。昨年は千葉県のイベントとして食育推進大会を開催したが、本年は各地域で食育推進大会を開催している。

(財)千葉県栄養士会

食育・健康について活動している。活動費は加盟会員費で賅っている。日本人の健康状態は生活習慣病が60%以上であり、今健康でも将来の生活習慣病が懸念される。

千葉日報で平成4年から食材の栄養価を紹介してきた。今までの掲載原稿をまとめた冊子を、千葉県下の公民館等に寄贈してきた。

来年から公益法人化を目指している。食育の講座を開催し講師を30回程度派遣することを検討中。

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

「しっかり運動、早ね、早おき、朝ごはん」をスローガンに、平成20年度から学童期からの生活習慣病予防事業を実施。児童・保護者等に対してアンケート調査をし、その調査結果をまとめて発表した。その結果は、健康な体は、おもいやり、自信など精神面の安定に関係している等の結果が出ている。本年も同様の調査をして、さらに次年度へと展開していく。

千葉市地域婦人団体連絡協議会

食の安全とくらしを中心に「千葉市産業まつり」に参加。アンケートも実施した。

「食と農業の取組」は香取郡多古町と協力して農業体験(バケツ稲)を実施した。

食味会の開催や太巻き寿司料理イベントをJA 婦人部の協力で開催した。

生活協同組合ちばコープ

食育学校プログラムでは、ワークショップ形式で実施し、来年は中学校でも取り組む予定。生協なので、食品加工会社や生産者と関係があり、工場見学や農業体験を実施。



食と農を支えてくこと、暮らしに「農」等の体験があることが大切。農業体験イベントでは家族の参加が多くなっている。時には親子3世代参加もいる。参加する親の姿を見ているだけでも、子どもに食べ物への関心が生まれる。生協は栄養士会とともに、農家と一緒に参加できる農業体験を山武地域でやっている。生協も「ファームマイレージ」を進めたい。

松戸市消費者の会

北海道産小麦を使用した親子料理教室を開催して「パンづくり」をした。

今朝ごはんを食べている子供が増えている。しかし、お母さんと一緒に買い物に行かない。食育や地産地消を進めて子どもにも環境問題に興味を向けたい。

学校給食に関して教育委員会と年1回意見交換会をしている。行政に対してできる限り、地場産の食材を使うように要望している。行政からは「農業は天候しだいなので、決められた納品期日に納品は難しい」と言われなかなか進まない。山武地域の食環境はよいですね。

ちば食育ボランティア 板良敷さん

私の本業は手芸教室だが、JA や小・中学校、企業団体等いろいろなところで食育講座

の講師を務めている。オリジナル教材（布で作った教材）を使ってわかりやすく説明している。本年の講演は48回、約3900名の参加があった。

エプロンシアターでは、手作り教材の作成を教えている。また、オリジナル教材の作成受注や話し方も教えている。

要望があれば講演をお引き受けしたい。

（財）千葉県学校給食会

学校給食関係者を対象に本年は12月までに食育推進講座を4回開催してきた。

千葉県は、全国でも有数の里芋の山地であり、学校給食への安定的にするため、千葉県で品種改良した「ちば丸」という調理しやすい新品種をJA関係者、学校関係者、行政関係者、特に生産者の協力により商品開発と安定供給につなげた。